

専門医による 肩関節治療

Expert Shoulder Care by Specialist

医師紹介

北九州市立八幡病院 整形外科 部長
田島貴文

平成19年 産業医科大学卒

- ・日本手外科学会専門医
- ・日本整形外科学会専門医・指導医
- ・リバーズ型人工肩関節資格終了
- ・DARTS人工手関節資格終了
- ・日本整形外科学会認定リウマチ医



2025年4月から北九州市立八幡病院で勤務しております田島貴文です。それまでの10年間は産業医科大学病院で勤務しておりました。専門は肩・肘・手の疾患（上肢）です。手術が必要か、保存療法で対応可能かを適切に判断し、手術が必要な場合には患者さんにとって最適な治療法を提案します。関節鏡視下手術から人工関節手術まで上肢に関するあらゆる治療に対応しております。診断や治療方針について判断に迷われる患者さんがいらっしゃいましたら、どうぞお気軽にご紹介いただければ幸いです。

主な肩関節の疾患と治療

肩関節周囲炎

多くのケースでは時間とともに自然に改善しますが、痛みが強い場合は注射やリハビリを行います。リハビリや注射でも可動域の改善がみられない場合には以下の治療を行い、術後はリハビリを行うことで痛みなく、可動域が改善します。

■サイレントマニピュレーション（非観血的肩関節授動術）

エコーを使い、神経に麻酔薬を注入して可動域を改善する治療

■関節鏡手術（鏡視下肩関節授動術）

関節鏡を用いて肥厚した関節包を切離して可動域を改善する治療（図1）

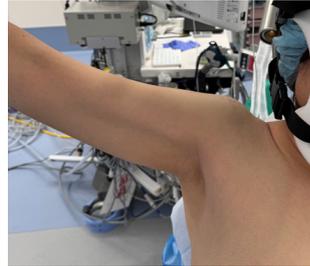


図1. 肩関節拘縮に対する関節鏡を用いた手術

腱板断裂

症状が軽い場合はリハビリで対応しますが、痛みが強い、可動域が制限される、筋力が弱い場合には、以下の治療を行います。

■腱板の状態がよい場合

関節鏡を用いた腱板修復手術（図2）



図2. 腱板断裂のMRIと関節鏡を用いた手術

■腱板の断裂が大きい場合や腱板の質が悪い場合

リバース型人工肩関節置換術（図3）



図3. 腱板断裂性肩関節症（腱板断裂の進行して変形性関節症になった状態）
リバース型人工肩関節、ナビゲーションシステムを使用

上腕骨近位端骨折

リハビリを適切に行うことで、疼痛の軽減と可動域の回復が期待できます。

■転位が少ない場合

早期から可動域訓練を開始する保存療法

■転位が大きい場合

プレートや髄内釘（図4）

人工関節を用いた手術



図4. 上腕骨近位端骨折に対してプレートや髄内釘を用いた骨接合術

石灰沈着性腱板炎

通常はステロイド注射や内服で痛みは緩和されますが、症状を繰り返す場合、動作時の痛みが続く場合には、関節鏡を用いてカルシウムの沈着物を取り除く手術（図5）を行うことがあります。

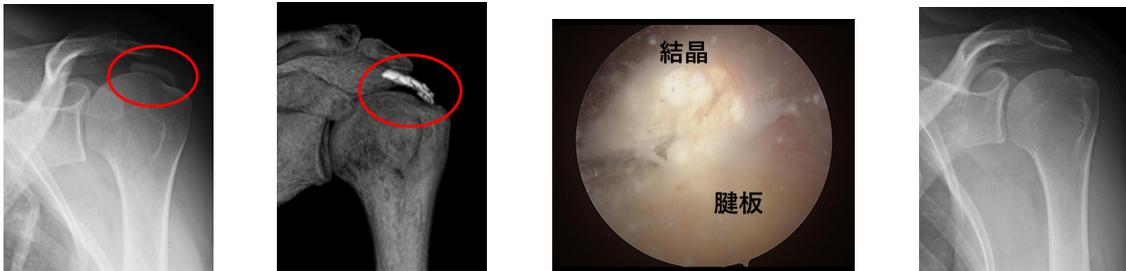


図5.石灰沈着性腱板炎、関節鏡を用いて結晶を切除

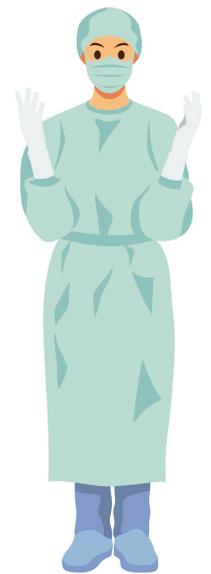
反復性肩関節脱臼

脱臼を繰り返す場合には、以下の治療を行うことがあります。
これにより安定した肩となり、スポーツ復帰が可能となります。

- **関節鏡手術（関節唇修復術）**（図6）
- **烏口突起移行術（骨の一部を移動させて安定性を高める手術）**



図6. 反復性肩関節脱臼、関節鏡下に剥離された関節唇をアンカー糸を用いて縫合



変形性肩関節症・腱板断裂性肩関節症

痛みを取り除く効果が高く、術後リハビリを行うことで可動域が回復します。

- **痛みが軽い場合**
リハビリや注射、内服などの薬物療法
- **痛みが強い場合**
解剖型人工肩関節（図7）
リバーズ型人工肩関節置換術（図3）



図7. 原発性変形性肩関節症に対する解剖型人工肩関節

整形外科診療

当院は救命救急センターを併設しており、重度外傷の症例が多いことが特徴です。また、小児救急・小児総合医療センターも併設しているため、小児の骨折症例も数多く取り扱っております。このように、当院整形外科は救急医療とともに発展してまいりました。今後も、救命救急医療、小児救急医療、災害支援医療といった当院の使命を担いながら、市立病院ならではの地域に根ざした医療を提供し、地域住民の皆さんに貢献できるよう努めてまいります。現在、6名の整形外科医が在籍しており、股・膝関節外科、手外科、肩・肘関節外科、外傷の各分野において、専門性の高い医療を提供しています。

【股・膝関節外科】

膝および股関節の変形性関節症に対しては、関節温存手術（寛骨臼回転骨切り術や高位脛骨骨切り術）や人工関節置換術を積極的に行い、患者さんのQOL向上を目指しています。



人工関節置換術を行うバイオクリーンルーム

【手外科】

手は小さな領域に腱・神経・血管など多くの重要な組織が集中しており、解剖学的にも非常に特殊な構造をしています。手外科は、骨折や関節脱臼、腱・神経損傷といった上肢の外傷や運動器疾患に対して、機能再建を通じて「動く手」「使える手」を取り戻すことを目指す、専門性の高い分野です。

【肩関節・肘関節外科】

肩関節および肘関節は、可動域が広く、日常生活やスポーツ活動において非常に重要な役割を担っています。当院では、腱板断裂、反復性肩関節脱臼、腱板断裂性肩関節症、原発性変形性肩関節症、上腕骨近位端骨折・変形治癒、上腕骨外側上顆炎（テニス肘）、変形性肘関節症など、幅広い疾患に対して、機能回復と痛みの軽減を目的とした治療を行っています。

【外傷】

骨粗鬆症を有する高齢者に多くみられる脆弱性骨折（大腿骨近位部骨折〔大腿骨頸部骨折・転子部骨折〕、脊椎椎体骨折、橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折）をはじめとして、四肢のあらゆる骨折・外傷に対応しています。手術を要する骨折に対しては、可能な限り早期に手術を行い、早期離床・早期回復を目指した治療を心がけています。また、小児の骨折も多く取り扱っており、将来的な機能障害を残さないことを最優先に治療にあたっています。

～医師紹介（専門分野）～

- 副院長：岡部 聡（股関節・膝関節）
- 整形外科主任部長：目貫 邦隆（手外科・外傷・骨粗鬆症）
- 整形外科部長：田島 貴文（肩・肘・手外科・外傷）
- 整形外科部長：栗之丸 直朗（股関節・膝関節・外傷）
- 整形外科副部長：大久保 友貴（外傷・整形外科一般）
- 整形外科副部長：堀之菌 聡（外傷・整形外科一般）



北九州市立八幡病院 整形外科
ホームページQRコード